

大学生のクラブ・サークル活動における困難な体験を通じたベネフィット・ファインディング及びソーシャルサポートとキャリアレジリエンスの関連

西村香穂

(広島大学大学院人間社会科学研究科)

背景と目的

自律的にキャリア形成をする過程で有効な働きをすることが報告されている心理的特性として、「キャリア形成を脅かすリスクに直面した時、それに対処してキャリア形成を促す働きをする心理特性」と定義され、問題対応力、ソーシャルスキル、新奇・多様性、未来志向、援助志向の5つを構成要素とする「キャリアレジリエンス」が挙げられる(児玉, 2015)。

大学生がキャリアレジリエンスを形成する場面として、池田他(2018)はクラブ・サークル活動に着目し、活動における積極的な関与や目標達成に向けた取り組み、メンバーとの深いコミュニケーション、内省を行うことがキャリアレジリエンス(児玉(2015)の問題対応力に該当)形成に効果があることを示唆している。しかし特性としてのレジリエンスは、逆境など困難な出来事を乗り越える過程を通して高まるとされているが(Richardson, 2002), 池田他(2018)ではクラブ・サークル活動での困難な出来事とキャリアレジリエンスとの関連は検討されていない。そこで本研究では、困難な出来事を乗り越えて適応・成長することを説明する概念であるベネフィット・ファインディング(以下BF, 渡邊, 2020)と、浦崎・森川(2019)でBFを促進することが確認されているサポートに着目し、クラブ・サークル活動における困難な体験に対してどのようなサポートとBFがキャリアレジリエンスの形成につながるのかについて検討することを目的とする。

方法

調査対象者と手続き クラブ・サークル活動に所属している大学生163名を対象とし、2023年9月に質問紙調査をオンラインで実施した。研究に先立ち大学での研究倫理審査を受け承認された。

調査内容 キャリアレジリエンス及び、予備調査で得られた3種類の困難な出来事(技術や知識の伸び悩み、他のこととの両立、メンバーとの人

間関係)の過去半年間での経験の有無を尋ねて、「ある」と答えた者にその経験におけるソーシャルサポートとBFを尋ねた。(1)キャリアレジリエンス:児玉(2017)の尺度を使用した。(2)困難な出来事:経験の有無と辛さの程度を尋ねた。(3)ソーシャルサポート:片受・大貫(2014)の尺度を用い、評価的サポート、情報・道具的サポート、情緒・所属的サポート(各4項目)を測定した。(4)BF:渡邊(2020)の尺度のうち、ありのままの受容、新視点の獲得、対人関係の深化、生きる目的への気付きの一部を利用した。

結果と考察

困難な出来事のうち経験人数が最も多かった「技術や知識に関して伸び悩み」(122名)を分析対象とした。ソーシャルサポートからBFに対して、さらにこれら全てからキャリアレジリエンスに対してパスを想定し、パス解析を実施した。有意(有意水準5%)なパスのみを残すという探索的な分析を行ったところ(Figure 1), 比較的高い適合度が得られた(GFI=.96, AGFI=.90, RMSEA=.01)。BFの新視点の獲得と生きる目的への気付きからキャリアレジリエンスに対して正のパスを示したことから、これら2つのBFを経験することが特に重要であることが示唆された。またサポートの中でも特に評価的サポートは、BFを介してキャリアレジリエンスの全ての因子を促進する働きをしており、特に重要と言える。

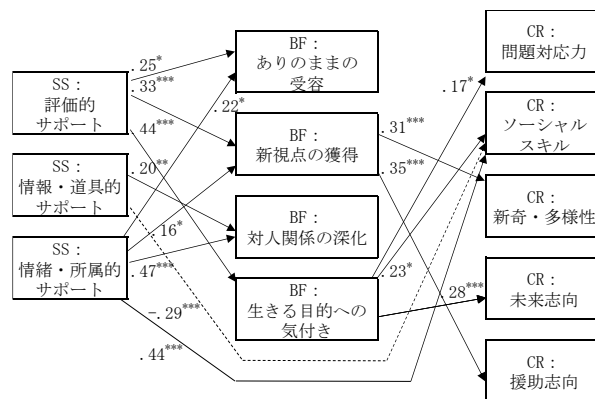


Figure 1 パス解析の結果